

ロマンス語学関係文献 (1)

この欄ではロマンス語 (一般および個別) に関する文献を、国内の大学その他の研究機関において直接あたれるものから順次掲載していこうとおもう。担当者はそのつど変わることがある。

文献の分類はつぎの要領でおこなったが、これは一応の私案にすぎない。

[1] 1けたの数字は内容の別を示し、同一の内容のものについては言語の別を問わない。なお小数点以下は整理番号を示す。

分類表

0. 書 誌
1. 定期刊行物
2. シ リ ー ズ
3. 論 文 集

[2] 2けたの数字は 10 位が言語の別を、1 位が内容の別を示す。なお小数点以下は [1] と同様に整理番号を示す。

分類表

00. ロマンズ語一般	0. 総 説
10. ルーマニア語	1. 辞 典
20. イタリア語	2. 語 史
30. サルディニア語	3. 文 法
40. フランス語	4. 音声学・音韻論・正書法
50. プロヴァンス語	5. 形態論・構文論
60. スペイン語	6. 語い論・意味論
70. カタラン語	7. 文体論
80. ポルトガル語	8. 文献学・文学
90. そ の 他	9. そ の 他

(例) 83.1 José Marques de Cruz, *Portugues pratico*.

(この80 はポルトガル語を、3は文法を、1は上記の文献の整理番号の意味)

0. 書 誌

0. 1 BIBLIOGRAPHIE LINGUISTIQUE.

Spectrum, Utrecht.

Conseil international de la philosophie et des sciences humaines の後援のもとに Comité international

permanent des linguistes によりユネスコの助成金で刊行され、現在世界の諸言語を対象としたものとしては最大の規模をもつ言語学年刊書誌。編集主監はオランダの J. J. Beylsmit で、1949 年以来毎年一か年間の文献に前年度までの収録もれを追加しながら刊行されている。たとえば 1963 年度分 (1965 年発行) には収録合計 10,950 点のうちロマンス語関係は 1,212 点である。文献によってはその書評の掲載箇所の指示、簡単な解説が加えられている。なお、おわりには著者別の Index がそえられている。

0. 2 THE YEAR'S WORK IN MODERN LANGUAGE STUDIES.
Cambridge University Press.

W. J. Entwistle 編集により 1932 年創刊。主として中世ラテン語、ロマンス語、ゲルマン語、スラブ語を対象とし、語学および文学に関する過去一か年間の著書、論文から主要なものを概説した年刊書誌。刊行には 0. 1 と同様 UNESCO の助成金を受けている。毎巻ロマンス語の占める比重は大きく、たとえば 1961 年度分 (第 23 巻) では総頁数 598 のうち約 3 分の 2 がロマンス語に当てられている。言語ごとにまた語学、文学ごとにそれぞれ専門の学者が担当している。

0. 3 Robert A. Hall, Jr. : BIBLIOGRAFIA DELLA
LINGUISTICA ITALIANA (I ~ III).
Sansoni, Firenze, 1958, pp. 1278

イタリア語 (および方言、さらにこれに関連するロマンス語) の科学研究に関する資料の総合目録をめざしたもので、現存するこの種のものとしては最大の規模を誇る。原則として Asoli の登場する 1860 年以後に刊行されたものを対象としているが、合計 6857 点が収録され、大きく イタリア語史、イタリア語の記述、イタリア方言学、イタリア言語学の歴史の 4 部に分けられている。各文献には簡単な解説とあるいは書評の掲載箇所の指示が与えられている。

0. 4 MODERN ITALIAN LANGUAGE AND LITERATURE :
A BIBLIOGRAPHY OF HOMAGE STUDIES.

Harvard University Press, Cambridge, 1959.

編集は H. H. Golden と S. O. Simches による。ロマンス語関係で記念論文集に現われた文献の目録としては同発行所によるフランス語、スペイン・ポルトガル語を対象とした先の 2 書に次ぐもの。ロマンス語一般、イタリア語、イタリア文学 (世紀別に分類) に関する 1966 点が収録されている。

1. 定期刊行物

1. 1 VOX ROMANICA. Annales Helvetici explorandis
linguis Romanicis destinati.

Francke Verlag, Bern. 年 2 回発行。

編集は C. Th. Gossen と G. Hilty.

スイスの代表的なロマンス語学誌。創刊は 1936 年。

〔内容例〕： 第 25 卷〔1966〕 第 1 号の目次から。

C. Th. Gossen. — Zum 30. Todestag von Wilhelm Meyer-Lübke.

W. Meyer-Lübke. — Die Ziele der romanischen Sprachwissenschaft.

H. Weinrich. — La place de l'adjectif en français.

なおシリーズ ≪ ROMANICA HELVETICA ≫ も同発行所によるものである。

Francke Verlag はまたパンフレット ≪ ROMANICA NOVA ≫ を絶えず発行し、ロマンス語・文学関係の新刊書、論文についてのニュースをいち早く世界のロマンス語学者に無料で送りとどけている。

1. 2 ARCHIVUM ROMANICUM. Nuova Rivista di Filologia Romanza.

Leo. S. Olschki, Firenze.

Giulio Bertoni により 1917 年 Genève の同発行所から創刊されたロマンス語・文学研究誌。ただし第 25 巻をもって 1941 年廃刊されている。

〔内容例〕： 創刊号の目次から。

Giulio Bertoni. — Poesie musicali nel cod. estense latino №568.

— Nuovi documenti sulla vita di Lodovico Ariosto.

Ezio Levi. — Una frottole veneziana per la guerra di Chioggia.

しかしながら同発行所によるシリーズ BIBLIOTECA DELL' ≪ ARCHIVUM ROMANICUM ≫ Serie II : LINGUISTICA の方は第 1 巻が 1921 年に発行されて以来今日まで続き、イタリア語訳 B. E. Vidos Manuale di linguistica romanza. (1959) はその第 28 巻をなすものである。

1. 3 RUVUE DE LINGUISTIQUE ROMANE.

Publiée par la Société de Linguistique romane.
年 2 回 発行。

フランスのロマンス言語学会の機関誌で、1925 年創刊以来ヨーロッパにおけるロマンス語学誌として代表的なものの一つとなっている。同学会は現在 W. von Wartburg, R. Menéndez Pidal などの名誉会員のもとに会長は J. ORR, 会の運営にはヨーロッパの著名なロマンス語学者が当たっている。

〔内容例〕： 第29巻〔1965〕 第2号の目次から。

J. Roca-Pons. — Le sujet et le prédicat dans la langue espagnole.

G. Massignon. — Vie pastorale en Corse.

Gabriel Guillaume. — Échos d'un message linguistique: oeuvres et leçons de Gustave Guillaume. ほか。

1. 4 RUVUE DES LANGUES ROMANES.

Université de Montpellier, Faculté des Lettres et Sciences Humaines.

年2回発行。

創刊は1870年。ロマンス語・文学研究誌だがとくにプロヴァンス語・文学に関する論文が載せられているのが特徴。

〔内容例〕： 第79巻〔1965〕の目次から。

Eugen Tanase. — Profesorului Jean Bourcièz.

Camroux Charles. — A propos d'une chanson pieuse.

Barral Marcel. — Remarque sur l'emploi des temps du subjonctif en français moderne. — valeurs temporelles et modales.

Bibliographie occitane des années 1960, 61, 62, 63, 64. ほか。

1. 5 TRAVAUX DE LINGUISTIQUE ET DE LITTÉRATURE.

Publiés par le Centre de Philologie et de Littératures romanes de l'Université de Strasbourg
Librairie C. Klincksieck, Paris.

年2回発行。

Strasbourg大学のロマンス語・文学研究所の機関誌としてG. Strakaを中心に1963年に創刊された。年2回発行されるうち一方は言語学・文献学に、他方は文学に当てられている。

〔内容例〕： 第2巻〔1964〕第1号の目次から。

Gérard Moignet. — Gustave Guillaume et la science du langage.

Georges Straka. — L'évolution phonétique du latin au français sous l'effet de l'énergie et de la faiblesse articulatoires.

Odette Mettas. — Etude sur l'intonation en français. ほか。

なお、第4巻〔1966〕第1号は Pierre Gardette の選暦記念論文集に当てられる予定である。

同研究所は 1960 年以来シリーズ < BIBLIOTHÈQUE FRANÇAISE ET ROMANE > も発行している。

(早稲田大学講師 菅田 茂 昭)

ロマンス語研究会投稿規定

- 1 用語は、日本語、フランス語、スペイン語、イタリア語、英語、またはドイツ語。
- 2 日本語のばあい、原稿は左よこがきとし、現代かなづかいにしたがい、漢字はなるべく当用漢字のわく内のものを用いる。
- 3 外国の人名、地名、書名などの固有名は、国名や首都名は別として、原名でしるす。
- 4 句読点は欧文式にしたがう。(例 …… ; :)
- 5 年号は西暦をつかう(元号を併記するときはカッコに入れて西暦のあとに加える)。世紀にはローマ数字をあてる(例 XIX 世紀)
- 6 注は通し番号とし、まとめて原稿の末にそえる。
- 7 原稿の分量は、論文のばあいは400字詰で40枚以内(欧文のばあいはタイプで500行以内)、書評等のばあいは10枚以内、研究発表要旨は6枚以内。
- 8 投稿原稿の採否は編集委員会の判断による。
- 9 印刷上の体裁についても、編集委員会の意向による。
- 10 抜刷は、論文では20部、書評等では本誌を3部まで、無料で呈上する。それ以上は実費でわかつ。
- 11 稿料は支払わない。